

〈国語〉「どうぞよろしくのかい」をしよう

学習のねらい(教科)

- ・自己紹介の活動に興味をもつ。
- ・伝えたいことが相手に伝わるようにカードづくりをすることができる。
- ・友達の名前を知り、自分の名前を伝えることができる。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 文字や言葉の理解に個人差があることを踏まえ、視覚支援とともに丁寧な言葉がけや関わりを大切にしながら、安心して活動に取り組めるようにする。(B③-④)
- 学年やグループなどの活動を取り入れ、親しい友達との関わりを軸に子ども同士の人間関係が広がるようにする。(C③-①)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	・「どうぞよろしくのかい」(自己紹介)をすることを知る。 ・自分の名前や好きなものの絵をかく。	・ジャンボ名刺を1人1枚用意する。 ・ひらがなを学んでいないので、書ける文字だけ書くように伝え、教師が支援する。 ・名前の周りに自分の好きなものの絵をかかせる。	言葉による伝え合い 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚
ともだちは どんなものやどんなことがすきな。			
展開	・じゃんけんで勝った人からジャンボ名刺を見せながら自分の名前と好きなものを一つ紹介する。 ・5人以上の友達と行う。	・自己紹介の仕方の話型を練習できるようにする。 「私の名前は、〇〇です。好きなものは、△△です。どうぞよろしくお願いします。」 ・自分から話しかけられない子どもには、声をかけて、自己紹介ができるようにする。	協同性 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	・「どうぞよろしくのかい」をした感想を交流する。	・名前を覚えた友達がいたら発表させる。 ・一人ひとり好きなものが違うことに気付かせる。 ・名前を覚えて、友達と仲良くなろうという気持ちをもたせる。	協同性 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に子どもたちは、遊びや生活の中で、友達と協力したり一緒に何かをする楽しさを味わってきています。友達がいることの楽しさを知り、小学校で新たな友達との出会いを楽しみにしています。新たに出会った友達のことをよく知りたい、親しくなりたいという気持ちを大切に関わりのきっかけをつくり、友達への興味や関心から人間関係を広げていくことができます。

〈図工〉ぞうのエルマーをいろでかざろう

学習のねらい(教科)

- ・「ぞうのエルマー」の読み語りを聞いて物語の面白さを味わう。
- ・自分が考えた色をエルマーにチョコレートぬり(べたぬり)のぬり方でぬる。
- ・友達が色をぬったエルマーを楽しみながら見る。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 園で経験してきたことなどを十分に認め、子どもが発表する機会をもつ中で、子ども自身が安心して活動に取り組むとともに、自覚的な学びにつながるようにする。(B③-③)
- 環境の違いや個人差が大きいことを踏まえ、一人ひとりの姿をよく見つめながら、子どもたちができることや経験していることを生かした授業を行う。(C③-③)
- 子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。(1指示1動作で活動できるよう意識する)(B③-⑥)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	「ぞうのエルマー」の絵本を聞く。 ・ <u>気に入ったところを発表する。</u>	・お話が分かるように、ゆっくり読む。 ・絵本の絵が分かるように、 <u>電子黒板に映す。</u>	言葉による伝え合い
展開	・ぞうのエルマーに好きな色をぬる。 ・パスの使い方を知る。 ・エルマーの体のマス1つに1色ぬる。 ・同じ色で2、3マスぬる。	・園などでパスを使った <u>経験を出し合い、確認</u> をする。 ・パスの使い方を教える。 ぬり始め、ぬり終わりに、ティッシュでパスの頭をふく。 力を入れてすぎまなくぬる。(チョコレートぬり) ・ <u>1色を隣り合わない2、3マスぬってもよいことを伝える。</u> ・実際にやって見せることで、安心して取り組めるようにする。	豊かな感性と表現
まとめ	・友達と作品を見せ合いながら、 <u>自分の作品の気に入ったところを発表する。</u>	・自分の作品や友達の作品を見て、 <u>気に入ったところを自由に発表する場を設ける。</u>	思考力の芽生え 言葉による伝え合い

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期から親しんだパスを使うことで安心して色をぬることができます。安心して表現することを楽しみながら、ぬり方や道具の扱いについて知ることができます。自分の表現だけでなく、友達の作品にも目を向け、感じたことを言葉で表現することにもつなげています。

〈体育〉からだほぐしの運動遊び

学習のねらい(教科)

- ・運動遊びの行い方を知り、いろいろな運動遊びを友達と一緒に楽しむ。
- ・楽しかった運動遊びを友達と一緒にしたり、もっと楽しい遊び方を見つけたりする。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-③)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	・いっぱい体を動かして遊ぼう。 - あいさつをする。 - 準備運動をする。 (音楽をかけてもよい)	・指示や説明は短く、児童が遊ぶ時間を十分に確保する。	健康な心と体
展開	もっと「たのしい」あそびにするには どうしたらよいだろうか。		
	・体ほぐし、運動遊びに取り組む。 - 忍者手裏剣(教師対児童) - むすんでひらいて(友達とペア) - もうじゅうがり(ペアからグループ) - じゃんけん列車(1人から全員) - なべなべそこぬけ(2人から全員) ・友達と一緒に楽しく遊んだり、遊び方や動きのコツをつかんでいたりする児童を全体に紹介する。 ・もう一度、体ほぐしの運動遊びに取り組む。	・運動の技能ではなく、意欲的に取り組む姿を認め、学習に向かう気持ちを育てていく。 ・肯定的な言葉がけを多く行い、必要に応じて補助したり、助言したりする。 ・戸惑っている児童には、自分にできそうな、やさしい動きから取り組むよう助言する。	協同性 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 自立心 言葉による伝え合い 思考力の芽生え
まとめ	・後片付けをする。 ・整理運動をする。 ・学習の振り返りをする。	・遊びや動きを工夫して、もっと楽しくできるようにしている児童を称賛する。	豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に経験した遊びを通して運動遊び(体育)への意欲につなげていきます。自分でできそうなことから動きを工夫するなど、取り組もうとする過程を認めるようにします。

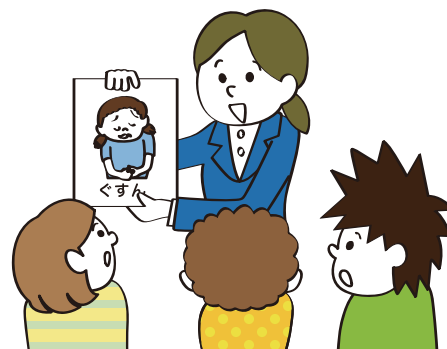
〈特別活動〉ひらがな きもちの「き」

学習のねらい(教科)

- ・人はいろいろな気持ちを感じながら生きていることに気付く。
- ・気持ちの感じ方や表現の仕方が人によって違うことを確かめ合う。
- ・自分の気持ちを素直に表現し、周りの友達に関心をもつ。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 「ほぐす」「ひらく」「つながる」を心がけ、生活や学習のあらゆる場面で、教師が子どもと子どもをつないでいくことを意識する。(B③-①)
- 日々の活動を通して、自分や友達のよさに気付けるような機会をもち、一人ひとりが自分らしさを発揮しながら、互いに認め合えるようにする。(B④-④)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	・「あんしんルール」を確認する。(うなずきの「お・へ・そ」、否定しない、最後まで聞く) ※「お〜」「へ〜」「そうなんだ」	・クラスの友達が不安な気持ちにならないために、『人の話は最後まで聞く、相手の考えを否定しない』ことを伝える。	道徳性・規範意識の芽生え
いまは どんな きもちだろうか。			
展開	・「いま、どんなきもち？」のイラストカードを一つずつ見せながら、その絵が表す気持ちを考える。 ・どんな時にイラストのような気持ちになるのかを考える。 ・ペアで話し合う。	・同じイラストでも、感じる気持ちの言葉は人によって違うことに気付かせる。 ・自分の気持ちを素直に伝えることの楽しさや開放感を感じさせる。 ・人によってさまざまな気持ちがあることに気付かせる。	自立心 協同性 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	・魔法のマイクを使って、友達に自分の気持ちを発表する。 ※ヒント集 P65を参照	・「あんしんルール」を全体で確認し、人によって感じ方や表現スタイルは違うので、自分の思い込みで、人の気持ちを決めつけてはいけないことに気付かせる。	道徳性・規範意識の芽生え 思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

いま、どんなきもち？
参考：大阪府人権教育
研究協議会



幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期の子どもたちは、いろいろな友達と一緒に遊ぶ中で、自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちに気付いたりする経験を重ねています。児童期には、人にはさまざまな「気持ち」や「感じ方」があることに気付けるようにしていきます。

〈図工〉ちぎってやぶって だいへんしん

学習のねらい(教科)

- ・破いた紙の見方や置き方、組み合わせ方を工夫するなどして、絵に表す面白さを味わう。
- ・破いた紙の形から思いついたことをもとに、表したいことを考える。
- ・友達の絵を見ながら、表したかったことや表し方の工夫を見つける。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 幼児期に学んだことを問いかけ、引き出ししながら、経験したことを踏まえて、同じ部分や相違点に気付くように言葉をかける。(B④-①)
- 子どもたちができたことを認めたり、取り組んでいることを励ましたりして、満足感・充実感をもって学習できるように心がける。(B④-③)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	教師が行うモデリングを見てやり方を知る。	・ちぎったり、破ったりしてできた紙を見せて子どもたちが思いついたことを、自由に発表させる。 ・組み合わせたり、色をぬったりしてよいことを伝える。	
展開	かみをちぎったり やぶったりすると、どんなものにへんしんさせられるかな。 ・自分が選んだ紙を手でちぎったり、破ったりする。 ・偶然できた形が、<u>何に見えるか考える</u>。 ・台紙の上に置いてちぎったり、破ったりした紙を並べたり組み合わせたりして、形のちがいを試す。 ・表したいことのイメージを広げながら思いついたことを、パスや色鉛筆、紙片などを使って表す。 ・友達の作品を見合いながら、表したいことについて話し合う。	・いろいろな固さや色、大きさの紙を用意する。 ・偶然できた形が何に見えるかを、<u>考えさせる</u>。 ・つくりたいものをちぎったり、破ったりしてつくるのではないことをおさえる。 ・絵の部分が多くならないように声をかける。 ・イメージがわきにくい子どもたちには、<u>班の友達と一緒に考えてもよいことを伝える</u>。 ・どうしても、イメージがわかない子どもには、個別に声をかける。	豊かな感性と表現 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 思考力の芽生え 協同性
まとめ	・友達の作品を見て、気に入ったところを<u>伝え合う</u>。 ・仕上がった作品を見て好きなところや工夫したところを伝える。 ・友達の<u>作品のよさを見つける</u>。	・自分の班だけでなく、<u>教室の中を自由に見て回らせる</u>。 ・友達の作品のどこが気に入ったのか、<u>理由を</u>考えさせる。 ・作品について<u>交流させる</u>。	言葉による伝え合い 思考力の芽生え 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に表現する楽しさを味わっている子どもは、小学校においても安心して自由に表現することができます。また、友達のイメージしたことに関心をもち、その工夫やよさに気付くことができます。

〈特別活動〉お誕生日会(4月・5月)

学習のねらい(教科)

- ・成長することの期待や喜びを感じることができる。
- ・友達と祝い合うことで、喜びを分かち合い、友達への思いやりの気持ちにつなげる。
- ・全体で集まり、集会をする時のマナーや態度を身に付ける。

幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 幼児期の遊びや活動を取り入れ、担任や友達と楽しみながら関わる活動を設定する。(簡単な手遊びや友達づくりにつながるゲームを取り入れる)(C③-②)
- 子どもの集中力や理解面から、短く、具体的に話すよう心がける。(1指示1動作で活動できるよう意識する)(B③-⑥)



学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	・誕生日の人はみんなの前に出て、自己紹介をする。	・かけがえのない誕生日を、みんなでお祝いすることの大切さを伝える。 ・誕生日の児童一人ひとりを紹介し、<u>成長の喜びを感じさせる</u>。	自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い
おたじょうびかいを ひらこう。			
展開	・「だれにだっておたんじょうび」を歌う。 ・もうじゅうがりゲームをする。	・歌やゲームに不安感をもつ児童に、声をかける。 ・1人で困っている児童がいた場合、友達とつながれるように配慮をする。 ・<u>ルールやマナーを守ることの大切さを伝える</u>。	自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	・みんなで楽しかったことを話し合う。	・みんなでお祝いをしたり、ゲームで<u>協力</u>したりすることの楽しさを伝える。 ・今回、誕生日ではなかった児童に<u>次回の期待をもたせる</u>。	自立心 協同性 道徳性・規範意識の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

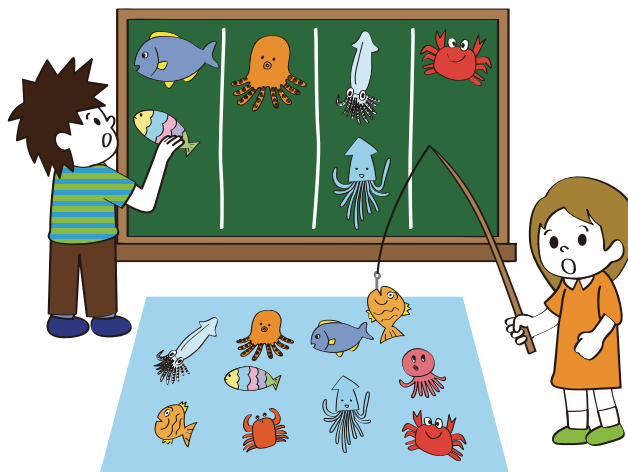
幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に誕生会でみんなが集う楽しさや、自分がお祝いしてもらったうれしさを感じています。一緒に楽しい時間を過ごす中で、友達と成長を喜び合ったり、互いに思いやったりしながら、つながりを深めていくことができます。

〈算数〉わかりやすく せいりしよう

学習のねらい(教科)

- ・ものの個数について簡単な絵や図に表す方法を理解し、データの個数を簡単な絵や図に表し、それらの特徴を読み取る力を養う。
- ・簡単な絵や図を用いてデータの個数を表したり、捉えたり比べたりしたことを振り返り、日常生活に活用しようとする態度を養う。



幼児期の育ちを踏まえた工夫

- 学習や生活のさまざまな場面で、幼児期やそれまでに培った力を発揮できるような活動を取り入れ、自信をもったり、さらに伸ばしたりできるようにする。(B⑤-①)
- 友達と一緒に考えたり、協力したりできる活動を取り入れ、できるようになったという喜びを感じ、進んで学習に取り組めるようにする。(B⑤-②)

学習の流れ

	学習活動	指導上の留意点	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(10の姿)
導入	グループに分かれて魚釣りをを行う。	- 魚のうち一種は「あたり」であることを伝えるが、種類は後から示す。 - 班の友達と協力しながら活動することを伝える。	協同性
わかりやすくせoirするには どうしたらよいだろうか。			
展開	「あたり」の魚が何かを知る。 - 釣った魚の中から、どのようにしたら「あたり」の数が分かりやすくなるかについてグループで考える。 - 考えを全体で発表する。	- グループで相談したことなどをノートに書く方法や話すことで具体的に考えを示すことができるようにする。 - 児童の考えが伝わりやすいように、<u>電子黒板などを活用し、全体に示す</u>ことができるようにする。	思考力の芽生え 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現
まとめ	図や絵に整理して、表すと分かりやすくなることをまとめる。	- 図のぬり方や、<u>見方の説明を具体的に</u>行う。 - 図を実際にぬることで、<u>分かりやすさが見える</u>ようにする。	思考力の芽生え 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 言葉による伝え合い 豊かな感性と表現

※その時期にふさわしい発達や学びに合わせた活動や関わりの工夫など

幼児期の育ちや経験を踏まえた接続のポイント

幼児期に遊びの中で、種類に分けたり、形や色、種類などで分類したりする経験を積み重ねています。ドングリを「大きい」「小さい」で分けたり、似たものを集めたりするなど、子どもたちの生活や遊びの中の経験が学習の中で思考する時のヒントになっています。